

Autonomic Nerves Therapist course

Basic②-4 実技

血管・内臓

睡眠 姿勢分析・介入

日本アレルギーリハビリテーション協会 代表
アレルコア 代表 理学療法士
及川 文宏



1



Basic②の内容

血管 (血流) 内臓

2つの評価・介入は自律神経を診ていく上で重要なポイント (Basic①の骨格の問題との繋がりも捉える)

- ・呼吸と内臓・血流と自律神経の繋がり
- ・解剖学を臨床に活かす方法
- ・内臓と理学療法

©JARA 無断使用・転載禁止

2



内臓・血管と理学療法

- ・理学療法における評価・介入の項目の一つ
- ・特別な領域ではない
- ・新人の筋骨格系の触診と一緒に、触れる経験の少ない内臓・血管の評価・介入には、細心の注意が必要
- ・リスク管理上、内臓・血管への介入の優先順位は、筋骨格系よりも下げるべき
- ・筋骨格系や心理的な障害を取り除いても解決しない場合に内臓や血管の仮説順位を上げるべき

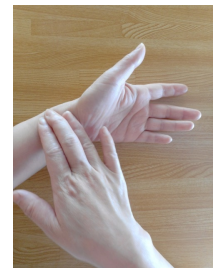
©JARA 無断使用・転載禁止

3



血管の評価

- ①指腹で血管の位置を確認し触診する
- ②圧の入力方向、圧の強さを調整し、脈をしっかりと触診できるポイントを探し、血流量を評価する



©JARA 無断使用・転載禁止

4



内臓を評価・介入するべき理由

- 自律神経の乱れやアレルギー症状において筋骨格系や神経系の評価では大きな問題が認められないことも珍しくはないため
- 運動療法や徒手療法におけるリスク管理のためどの程度の負荷をかけて良いかというリスク管理上も内臓の評価が必要
- 臨床における効果の実感
内臓への介入により、状態が大きく変わることを臨床で経験するため

©JARA 無断使用・転載禁止

9



胃の触診

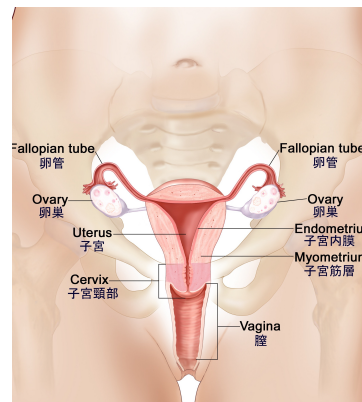
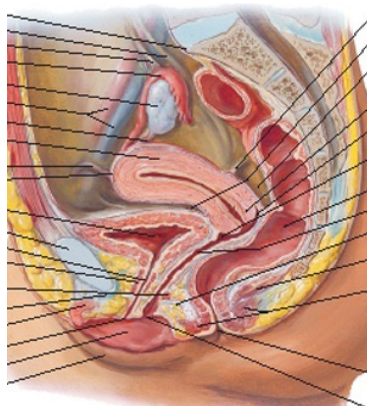


©JARA 無断使用・転載禁止

10



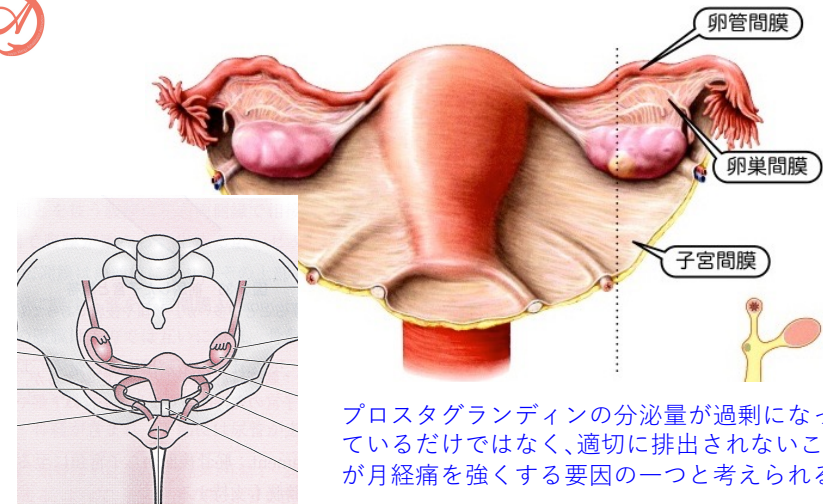
膀胱-子宮-卵巣



- 臓器自体の硬さ（弾力）や位置、可動性を診ていく

©JARA 無断使用・転載禁止

11

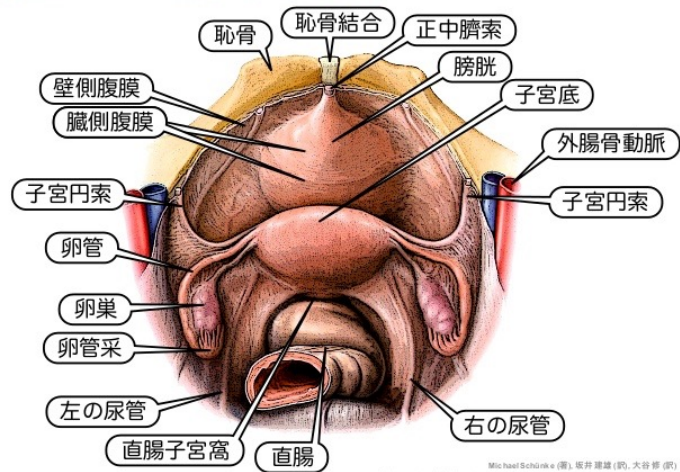


©JARA 無断使用・転載禁止

12



骨盤底における膀胱の位置 (女性)



Michael Schönikw (著), 坂井 謙雄 (訳), 大谷 修 (訳):
『プロメテウス解剖学アトラス—頭部・胸部・腹部・骨盤部』, 医学書院, 2008, p.235

13



リスク管理

- 介入前のチェック (介入後に再確認 (翌日も))
血圧、脈拍、体温 (局所の熱)、汗、痛み
お腹の調子、生理の状況、顔色
- 特に初回の介入は、細心の注意を払う
(刺激量は必要最低限にとどめる)
- 触れたことのない感覚を感じた場合、中止し、診察を促す
- 痛みを伴う介入は避ける
- 腹大動脈解離、動脈瘤は介入を避ける

©JARA 無断使用・転載禁止

14



睡眠障害者の評価ポイント

- **腰椎、骨盤、頸椎の動きとアライメント**
- **就寝時の姿勢や動き**
- **呼吸** • 顎関節 • 頭蓋骨
- 冷えの有無 (体温調節機能)
- 自律神経のバランス (特に副交感神経)
- 生活習慣: 就寝・起床時間、日中の睡眠の有無
日中と就寝前の活動、食事内容 (寝酒を含む)

©JARA 無断使用・転載禁止

15



睡眠の姿勢分析

- アライメント** : 左右差、全体のバランス
- トレース** : 床と体の接触面
- 揺らす** : 筋緊張や動きやすさ
- ボディスキャン**: 評価ポイントを指示していく

- 背臥位、側臥位、寝返りについて評価
特に苦手な肢位を評価するべし!
- 本人の感じ方とセラピストの評価内容のズレを見つける
本人の気がつかない偏りが睡眠を妨げていることが多い

©JARA 無断使用・転載禁止

16

ご清聴ありがとうございました。

- 日本アレルギーリハビリテーション協会 HP
Mail : allergy.rehabilitation@gmail.com



講習会情報はこちら↑

- 及川文宏／アレルギー協会
Fumihiro_Oikawa



- Note : アレルギーとたたかう理学療法士
アレルギー疾患や自律神経の乱れに対する
臨床のヒントを伝える https://note.mu/fumihiro_oikawa



©JARA 無断使用・転載禁止

17



宿題

- 前回の宿題で診た患者さんの血管と内臓の評価・介入を行う（2人）
- ※評価項目、介入内容は今回のセミナーで行ったことを中心に行い、**症例の評価・治療内容をFBページにUP**
- 内臓の位置をお腹にマーカーで書いて確認して、写真に撮ってFBへUP（上記の同じ2人でも可）
- 内臓の評価と患者さんの症状のつながりをクリニカルリーズニング（仮説・介入・結果・考察）する

©JARA 無断使用・転載禁止

18